新春研修会会場の様子

道神青
第68号
北海道
神道青年協議会
平成29年3月31日

平成28年度
北海道神道青年協議会 新春研修会

去る平成二十九年二月二十三日、北海道神道青年協議会平成二十八年度新春研修会が道内各地より会員三十六名の参加の下、北海道神社庁に於いて開催されました。

本研修会では「客観的アイヌ史」と題し、講師として砂澤陣先生をお招きし、御講演を戴きました。

砂澤陣先生は、彫刻家・砂澤ビッキ氏の長男として生まれ、ビッキ文様を継承するとともに作品の修復・保全活動、また自らも木工製品制作や日本の伝統的染色技法の注染で仕上げる「日本手拭い」の図案も手掛けております。また、ブログ「後進民族アイヌ」では、これまでタブーとされてきたアイヌ利権とアイヌ史研究の偏向性の問題を郷土愛という視点から告発を続けておられます。

御講演では「アイヌ」とは本来何なのか、アイヌ協会の実状や利権、それを取り巻く組織、今後道内各地で起こり得るアイヌ政策の問題等を、事例を交えて御講義戴きました。

一般的に「アイヌは虐げられた、先住民だ、不平等な取引をさせられた」などという一方論を押し付けられ、昨今では開拓史という言葉は差別だという風潮があり、その事例として日本ハムファイターズが昨年新千歳空港に掲げた「北海道は、開拓者の大地だ」という垂れ幕にク

レームが付き、垂れ幕撤去や北海道アイヌ協会に謝罪をさせられたそうです。

また、日本には始めから「アイヌ民族」という名称は存在せず、アイヌとは本来七つの部族と別系統の三つの部族の総称であり、江戸時代には京都から見た人が東北以北に住む人をアイヌと呼び、他称であったはずが、明治時代に入り旧土人保護法によって、それぞれの部族が初めて仲間意識を持ち、この時からアイヌを自称することとなったとお話されました。

ホワイトボードを使い講演される砂澤先生

更に、諸外国の先住民族の関係と、アイヌと倭人との関係は根底から全く違うものであるのに、海外からは同一視されており、日本人はアイヌを侵略し北海道を奪ったとして、国連を通し世界に広く発信され続けているが、実際には倭人とアイヌには共存共栄の歴史があり、互いの交易があって初めてアイヌ文化が成り立っていた史実もあるそうです。

アイヌ文化保護法には年間約六億円が使われており、日本の福祉政策を受けられるにもかかわらずアイヌ生活支援政策によってアイヌ修学資金が支払われ、これまでに凡そ三十億円が本来の目的ではなく、生活費や遊興費に使われている実態や、アイヌ民族には定義が無く、過去にそれぞれの部族が手を取り合いまとまった歴史も文化も無いにもかかわらず、アイヌを先住民族と認める事やアイヌ政策があることを認める事は負の歴史に目を背けている証拠であり、今まで以上に危機感を持つことが大切であると熱く強く仰っていました。

今回の研修会を終えて、この「アイヌ問題」とは中途半端な知識では語ることのできない非常にデリケートな問題であると感じました。しかしながら、この北海道という地で神職として生きる者として、正確な歴史を認識し、今後更に道内各地で起こり得るこの「アイヌ問題」について更に深く学び、正しい知識を身につける事が必要不可欠であると強く感じました。

厚真神社

禰宜　中村昇洋

縁結会開催

二月十八日、北海道神宮頓宮を会場に第一回の北海道版「縁結会」が行われました。この事業は今期初めて設置された次世代継承委員会が企画を行い、道内独身神職の出会いの場の提供と神社地域の振興を目的とするものであります。

祈願祭の様子

参加者は男性十三名、女性十二名の計二十五名によって始まりました。まず最初に行ったのは大前での良縁祈願祭です。男女での手水の作法の教授から祝詞の奏上など、普段では経験のできない雰囲気の中、厳粛に執り行われました。祈願祭後は参集殿に場所を移し、開会式が行われました。三橋会長の挨拶では「集まった神職は青年会の中でも精鋭であり、品行方正なものが多い。」と伝えられ、参加者も真剣な面持ちで受け止めていました。

自己紹介に移ると厳粛な雰囲気とは一変し、皆活発に会話を楽しんでいました。また独身神職にとっては女性と話す良い訓練になったと思います。懇親のためのゲームでは、以前研修を受けたファシリテーションを元に神社向けにアレンジが加えられました。ゲームの中からそれぞれの協調性や積極性、本当の考え方などが見えたと思います。

懇親会の様子

最後の懇親会では飲食付で会話をしてもらい、気になった人の名前を一名だけカードに記入して戴きました。残念ながらカップルは成立しませんでしたが、お互い連絡先を交換した人もいたようで、アンケートでも会を楽しむことができたとの評価を多数戴きました。今回初めて実施させて頂き、反省点もたくさん見えてまいりました。一度だけの事業にせず、反省点もふまえた上で二度三度と実施を重ねることで、成果も上がってくるかと思います。

最後に今回御協力戴きました、北海道神宮様、第一ホテル様には心より御礼を申し上げたいと思います。

次世代継承委員会

委員長　手塚裕警

平成28年度 神道青年全国協議会 中央研修会（広島）

中央研修会にて御挨拶される長友会長

去る平成二十九年三月二十三日～二十四日、全国より当会十四名を含む約三百八十名の会員が広島の地に集まり、中国五県青年神職協議会の主管、広島県神道青年会の担当のもと、平成二十八年度神道青年全国協議会中央研修会がＡＮＡクラウンプラザホテル広島にて開催されました。

「平和の希求～進むべき未来への道筋～」と主題を定め、第一講では「真の平和を実現するために」と題し、カリフォルニア州弁護士のケント・シドニー・ギルバート先生より、日本は世界で一番長く、深い歴史を持っている。自国をもっと誇るべきであり、戦後の自虐史から目を醒まし真の平和を考えなければならないと御講演戴きました。

第二講では「戦後七十年と平和」と題し、呉市海軍歴史科学館（大和ミュージアム）館長の戸高一成先生に、科学館の設立のお話から始まり、史実に基づいた展示等でリアルを教えることが平和教育には必要だということ。戦後七十年を迎えて徐々に失われつつある代え難い経験者の言葉を残して行くべきであるとの御講演を戴きました。

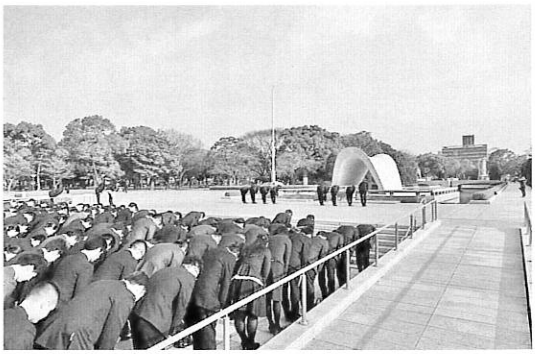
第二講目終了後には懇親会が行われ、広島で活動するアイドル２ＳＥＡＭが登場し、広島カープ応援ダンスを参加者皆で踊り、広島神青による戦艦大和の主砲レプリカの発射や手作りの零式艦上戦闘機（ゼロ戦）の登場等で大いに沸き、互いに懇親を深めた夜となりました。

二日目は原爆死没者慰霊碑参拝の後、第三講で「記憶の継承」と題し、広島平和記念資料館館長の志賀賢治先生より、今後の記念館の課題である、言語多様

参加した道神青協会員

化や二万点超の資料の劣化、今迄の展示方法から被爆者の視点から悲惨さを伝えていく事等を映像や画像を交えてお話戴き、資料が語るものを後世へ伝えていかなければならないと御講演を賜りました。

また中央研修会に先立って、研修旅行として、二十二日に広島平和記念資料館の見学、廣島護國神社の参拝、広島城の見学を行い、二十三日の午前に嚴島神社で正式参拝致しました。


原爆死没者慰霊碑参拝

研修旅行で正式参拝した嚴島神社

オバマ前大統領の訪問等で全世界から注目を浴びた広島での開催であり、先人達の足跡や過去の悲劇が刻まれている歴史的な地で我々神職が今回の研修で学んだ事、感じ取った思いを忘れずに日々御社頭で奉仕し、次世代へと伝えて行かなければならないと考えさせられる研修会でした。

旭川神社
権禰宜　西端啓佑

神道青年全国協議会
神武天皇二千六百年記念事業
世界平和祈願祭

去る平成二十九年二月二十日・二十一日、宮崎県宮崎市の地におきまして、神道青年全国協議会神武天皇二千六百年記念事業「世界平和祈願祭」が斎行されました。本事業は、橿原の地で建国の礎を築かれた神武天皇が崩御されてより二千六百年を迎え、その御聖徳を偲ぶと共に御事績を啓蒙し、我が国の根幹を確固たるものに修り固めなすべく国家の安寧と、更には世界平和を祈願するという趣旨のもと、全国より会員が集まり開催されました。北海道神道青年協議会からは、三橋会長、村井副会長、私（菊池理事）の三名が参加いたしました。

宮崎神宮での世界平和祈願祭

一日目は、八紘一宇の塔のある宮崎平和台公園におきまして、神賑行事が行われました。八紘一宇の塔は、「八紘一宇の精神を体現した日本一の塔」として構想され、神武天皇即位皇紀二千六百年記念事業として延べ約六万人の労働により、昭和十五年十一月二十五日に完成し、落成式典は国を挙げての奉祝行事の一つとして大きな役割を果たしたというものです。残念ながら諸般の事情で塔の前で行うのは初日の神賑行事のみとなりましたが、神道青年全国協議会（以下「神青協」）の神武天皇二千六百年記念事業の最後を飾るに相応しい場所であります。

八紘一宇の塔の前で神賑行事

まず十四時に宮崎神宮にて正式参拝。その後、習礼・打ち合わせを行った後、宮崎平和台公園に移動し、塔の前に設けられた祭壇と舞台で神青協役員と特別委員が祭員となり修祓式を行いました。北海道からは神青協の事業委員として私が大麻所役の御奉仕を致しました。修祓式の後は舞台にて、神楽や舞楽の奉納を熊本県神道青年会、長崎県神道青年会、神道青年九州地区協議会の御奉仕のもと行いました。当日は午前中が不安定な天気だったため神賑行事の開催自体が危ぶまれましたが、午後になり天気も回復して無事開催できたことに会員皆安堵いたしました。

参加した菊池理事、三橋会長、村井副会長（左より）

二日目は、宮崎神宮本殿にて世界平和祈願祭が行われました。当日は会員全員が七時三十分に宮崎神宮会館に集合の後移動。祭典には、宮崎神宮神職、神青協役員、各地区理事、特別委員の四十名程が祭員として奉仕し、また伶人奉仕者、参列者を合わせると百名ほどの規模で行われました。北海道からは神青協の地区理事として三橋会長が祭員として御奉仕しております。宮崎神宮の静寂な境内の中で厳かに祭典は執り修められ、全国から集まった多くの青年神職が八紘一宇の精神のもとでの国家の安寧と世界平和への祈りを捧げました。

神道青年全国協議会
事業委員会委員　菊池友亨

就任

道神青協会長就任にあたり

次期会長
村井　一介

日頃より先輩諸兄ならびに関係各位には多大なるご指導とご鞭撻を賜っております事に心より御礼を申し上げます。

去る平成二十八年十月十三日、北海道神道青年協議会臨時総会に於きまして、会員の皆様の温かいご承認を賜り次期会長の席をお預かりする事となりました。先輩諸兄が築き紡いでこられた六十八年という当会の歴史と伝統の重みに身が引き締まる思いでございます。浅学非才の身ではございますが、会務に全力で取り組み、会員の皆様と心ひとつに一丸となって運動に邁進し、斯界の繁栄はもとより、地域の為、国の為に尽くしてまいることをお誓い申し上げます。

さて、我が国を取り巻く環境がめまぐるしく変化している昨今、北海道そして斯界の抱える問題も多種多様化しております。そのような問題に対して私たちは青年神職としての立場から何ができるのか模索し、解決に向けた一助となるべく行動を起こしていかなければなりません。

そのために、まずは会員自身の資質の向上が不可欠であります。正確で深い知識無くして正しい行動はできません。会員一人一人が常に学びの心をもって日々を過ごすことはもとより、会としても学びの場を多く設けることで会員の資質を高める活動を行ってまいります。

また、会員が同じ方向性のもとに一致団結することが大きな運動推進力となります。そのためには会員相互の友情が必要です。この広い北海道に住まう私たちにとって会員同士が交流し親睦を深め合う機会は貴重であります。学びと交流の場を提供し、知識と友情を共有して、北海道、斯界を取り巻く諸問題に対して青年神職としての切り口から積極的に運動を起こしてまいりたいと思います。

さらに当会は、平成三十一年に創立七十周年の節目を迎えます。戦後間もない昭和二十三年十月二十五日に設立されてより七十年という長き年月、先輩諸兄が時代時代に即した運動を展開してまいりました輝かしい歴史に感謝と敬意を抱き、温故知新の精神で未来へ向けたさらなる一歩を踏み出せるよう、会員の皆様とともに準備をしてまいります。

平成三十年には、北海道は明治二年の太政官布告にて命名されてより百五十年を迎えます。北海道、道神青協ともに節目を迎えるこれからの二年間、先輩諸兄ならびに関係各位、そして会員の皆様には様々な方面で大変お世話になりますが、当会に対しまして、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、就任のご挨拶とさせて頂きます。

退任

道神青協会長退任にあたり

会　長
三橋　厚友

平成二十七年四月より道神青協の会長職をお預かりしてより二年、如何にか任期を満了し次期の会長にその襷を繋ぐことが出来ました。偏に力不足の私に温かい御支援、御協力を賜りました関係各位のお陰と衷心より御礼申し上げます。

思い起こせば、前期の伊部会長期は神青協の中央研修会が十一年振りに北海道にて開催され、更には道神青協の創立六十五周年を同時に迎える非常に重要な期でありました。それを会長の強力なリーダーシップによって数々の事業が展開され、一つひとつ滞りなく遂行させることが出来ました。この流れの中で道神青協創立六十五周年記念大会と同日に開催されました臨時総会に於いて、次期会長として選出、承認を頂きました。六十五年に亘り受け継がれてきた当会会長職の責務の重さというものをひしひしと感じ、身が竦む思いをしたことが忘れられません。

それでも会長として道神青協の為に何ができるかを思慮した上で、その取組の一つとして新たに設置したものが次世代継承委員会でした。

近年、北海道に於いても地域によっては過疎化が進み、氏子数の減少により神社の運営が厳しい状況になっている、若しくは将来的にそうなることが予想される神社が少なくありません。このような状況の中で、それぞれの神社が我々の子や孫に発展的に継承していける為にはどうすれば良いのかを協議し、事業を企画・運営出来る組織として特別委員会を起ち上げました。その為に会則の変更や委員の選出、予算の組み立て等難しい問題にも直面しましたが、先輩諸賢の御助言や会員各員の理解を頂くことで、総会に於いて委員会設置の承認を頂くことができ、事業としてファシリテーションの勉強会の開催や神社についての講義に使える資料の作成、そして北海道に於いても縁結会の実施にも至ることが出来ました。

その他にも東日本大震災復興支援活動や函館、帯広での研修会、英霊顕彰事業として道内三社の護国神社参拝等多岐にわたって事業を行うことが出来ました。これも役員・特別委員が各々の責務を全うしながら、私の足りない部分を補ってくれたお陰です。

次期の村井会長は、知性と行動力を兼ね備えており、創立七十周年の大きな節目を迎える当会においてその手腕を充分に発揮されることと期待しております。道神青協の益々の発展を祈念すると共に、御支援賜った関係各位に重ねて御礼申し上げ退任の挨拶とさせて頂きます。誠に有難う御座いました。

平成二十八年度 会務報告

自 平成二十八年 四月一日
至 平成二十九年 三月三十一日

道神青協会務報告

四月五日

■監査会　於　豊平神社社務所
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・丸井監事・中島監事・狩野顧問）

■第七回次世代継承委員会　於　豊平神社社務所
（手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・鎌田委員・山本委員・幕内委員）

四月六日

■役員会事前会議　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・濱村理事・手塚理事・菊池理事・芦原理事）

■第十二回役員会　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・濱村理事・尾形理事・山根理事・吉田理事・瀧川理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・伊部顧問・狩野顧問）

■平成二十八年度北海道神道青年協議会定例総会　於　北海道神社庁
会員数　百六十二名
出席数　五十名
委任状数　七十四通

議件
一、平成二十七年度会務報告
一、平成二十七年度一般会計歳入歳出決算書承認に関する件
一、平成二十七年度事業会計収支計算書承認に関する件
一、平成二十七年度積立会収支計算書承認に関する件
一、平成二十七年度災害対策基金収支計算書承認に関する件
一、平成二十七年度財産目録・在庫書籍調書承認に関する件
一、平成二十七年度会計監査報告
一、平成二十八年度活動方針並びに事業計画案に関する件
一、平成二十八年度一般会計歳入歳出予算案に関する件
一、その他

■総会勉強会　於　北海道神社庁
【演題】『世界は変わった日本の憲法は？』
上映

■懇親会　於　三川屋会館
○出席者　四十七名

四月二十六日

■三役会　於　東京都新宿区
（三橋会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長）

五月十一日

■事業部会　於　豊平神社社務所
（三橋会長・三橋副会長・北方事務局長・尾形理事・山根理事・鳥谷内理事・中島英理事・菊池理事・芦原理事・丸井監事）

■第八回次世代継承委員会　於　豊平神社社務所
（三橋会長・手塚委員長・勝沼幹事・垂水委員・鎌田委員・山本委員・中島監事）

五月十二日

■第十三回役員会　於　カタオカビル
（三橋会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・濱村理事・吉田理事・瀧川理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・松山理事・菊池理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・狩野顧問）

六月六日

■第九回次世代継承委員会　於　豊平神社社務所
（手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・大西委員・山本委員）

六月十二日

■事業部会　於　旭川神社社務所
（三橋会長・三橋副会長・北方事務局長・鳥谷内理事・中島英理事・芦原理事）

六月十三日

■第十四回役員会事前会議　於　旭川神社社務所
（三橋会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・尾形理事・瀧川理事・奥野理事・手塚理事・芦原理事）

■旭川神社正式参拝　於　旭川神社
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・吉田理事・濱村理事・尾形理事・吉田理事・瀧川理事・鳥谷内理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・狩野顧問）

六月十三日

■第十回役員会　於　旭川神社社務所
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・吉田理事・濱村理事・尾形理事・吉田理事・瀧川理事・鳥谷内理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・狩野顧問）

六月二十日～二十一日

■第五次復興支援活動　於　福島県
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・吉田理事・鳥谷内理事・中島大理事・菊池理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・鳥居会員・中村文会員・横井会員・内田会員・五十嵐直会員）

七月七日

■役員会事前会議　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・芦原理事）

■第十五回役員会　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・吉田理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・松山理事・芦原理事・中島監事）

七月二十二日

■第十回次世代継承委員会　於　北海道神宮頓宮社務所
（三橋会長・村井副会長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・幕内委員・山本委員）

八月十八日

■第十一回次世代継承委員会　於　旭川神社社務所
（三橋会長・手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・鎌田委員・幕内委員・山本委員・三橋副会長・芦原理事・丸井監事）

八月二十三日

■役員会事前会議　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・瀧川理事・芦原理事）

■第十六回役員会　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・尾形理事・瀧川理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・芦原理事・中島監事・伊部顧問）

九月三十日
■第十二回次世代継承委員会　於　北海道神宮頓宮社務所
（三橋会長・村井副会長・手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・大西委員・山本委員・幕内委員）

十月三日
■道神青協親睦スポーツ大会　於　すすきのラウンドワン
（参加者　四十三名）

■道神青協臨時総会　於　ニコーリフレ
会員数　百五十九名
出席数　五十一名
委任状数　六十五通
議件
一、次期会長並びに監事選出の件

■懇親会　於　ニコーリフレ
（参加者　五十三名）

十月十四日
■役員会事前会議　於　ニコーリフレ
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・吉田理事・瀧川理事・芦原理事）

■第十七回役員会　於　ニコーリフレ
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・濱村理事・尾形理事・山根理事・吉田理事・瀧川理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・狩野顧問）

十月二十五日
■帯廣神社正式参拝　於　帯廣神社

■第十八回役員会　於　ホテルグランテラス帯広
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・尾形理事・山根理事・吉田理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・中島監事）

十月二十五日～二十六日
■平成二十八年度道神青協研修会　於　ホテルグランテラス帯広
受講者　七十九名
【主題】『日本人の神髄』
【講師】
・前北海道議会議員
小野寺　秀　先生
・元宮内庁掌典職・亀山神社禰宜
潮　清史　先生
・元ＮＨＫアナウンサー・熊野神社宮司
宮田　修　先生

十一月四日
■第十三回次世代継承委員会　於　北海道神宮頓宮社務所
（三橋会長・村井副会長・手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・山本委員・幕内委員）

十一月十一日
■東京農業大学オホーツクキャンパス講義　於　東京農業大学オホーツクキャンパス
（三橋会長・手塚委員長・山本委員・奥野理事・中島監事）

十一月十六日
■第十九回役員会　於　まなBiz
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・川島理事・芦原理事・丸井監事・中島監事）

十一月十七日
■第二十回役員会　於　北海道神社庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・尾形理事・山根理事・吉田理事・奥野理事・中島大理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・狩野顧問）

二月八日
■第十五回次世代継承委員会　於　北海道神宮頓宮社務所
（三橋会長・村井副会長・手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・山本委員）

二月十八日
■縁結会　於　北海道神宮頓宮社務所
（参加者　三十七名）

二月二十三日
■新春研修会　於　北海道神社庁
【演題】『客観的アイヌ史』
【講師】工芸家　砂澤　陣　様
○出席者三十六名

■懇親会　於　大助
○出席者三十三名

二月二十四日
■役員会事前会議　於　カタオカビル
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・手塚理事・川島理事・芦原理事）

■第二十一回役員会　於　カタオカビル
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・尾形理事・山根理事・吉田理事・鳥谷内理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・芦原理事・丸井監事・中島監事）

三月十三日
■第十六回次世代継承委員会　於　北海道神宮頓宮社務所
（三橋会長・村井副会長・手塚委員長・武田副委員長・勝沼幹事・垂水委員・鎌田委員・大西委員・山本委員・幕内委員）

三月十六日
■第二十二回役員会　於　まなBiz
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・尾形理事・山根理事・吉田理事・鳥谷内理事・奥野理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・松山理事・菊池理事・芦原理事・丸井監事・中島監事・伊部顧問・狩野顧問）

三月二十二～二十四日
■道神青協研修旅行　於　広島県
（三橋副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・中島大理事・片石会員・中島徹会員・井上会員・横井会員・武田会員・西端会員・月舘会員）

関係団体行事・出向

四月十一日
■神青協第十回次世代委員会　於　大阪府神社庁
（手塚理事）

四月十八日
■神青協国家安寧祈願祭打合せ会議　於　橿原神宮社務所

（三橋会長）

四月二十五日
■神青協第十一回役員会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長）

四月二十六日
■神青協第六十八回定例総会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長）

■神青協災害対策委員会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長）

■北海道出身神職・学生との懇親会
於　くいものやわん　新宿東店
（三橋会長・三橋副会長・枝廣副会長・北方事務局長）

五月十二～十三日
■第一次熊本復興支援活動　於　熊本県
（村井副会長）

五月十六日
■神青協第十二回役員会　於　金刀比羅神社社務所
（三橋会長・村井副会長）

五月十七日
■神青協北方領土の碑現状視察並びに清掃奉仕
於　納沙布金刀比羅神社境内
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・枝廣副会長・菊池理事・川島理事・狩野顧問・前田会員）

五月十七日
■神青協臨時次世代委員会　於　中標津空港
（手塚理事）

五月二十五日
■神青協第四回渉外委員会　於　品川プリンスホテル
（三橋会長）

五月二十七日
■神青協第九回事業委員会　於　井草八幡宮
（菊池理事）

六月五日
■北海道護國神社慰霊大祭　於　北海道護國神社
（枝廣副会長）

六月六日
■神青協第十三回役員会　於　橿原観光ホテル
（三橋会長）

六月七日～八日
■神武天皇二千六百年記念事業　国家安寧祈願祭
於　橿原神宮
（三橋会長・村井副会長・北方事務局長・後藤尚会員）

七月四～五日
■北陸神道青年協議会研修会　於　山田温泉玄狼楼
（三橋会長）

七月十二日
■神青協第五回渉外委員会　於　神社本庁
（三橋会長）

七月十三日
■神青協第十四回役員会　於　多摩川浅間神社
（三橋会長・村井副会長）

八月二十九日
■神青協第十五回役員会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長）

八月二十九日～三十日
■神青協夏期セミナー　於　神社本庁
（三橋会長・三橋副会長・菊池理事・猪股会員）

八月三十日
■神青協第十一回事業委員会　於　神社本庁
（菊池理事）

十月四日
■神青協次期会長・監事選考委員会　於　松江テルサ
（三橋会長）

■神青協第十六回役員会　於　松江テルサ
（三橋会長・村井副会長）

十月二十五日
■神青協第十三回事業委員会　於　神社本庁
（菊池理事）

十一月八日
■神青協第十七回役員会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長）

十一月九日
■神青協臨時総会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・北方事務局長）

十二月六日
■神青協第六回渉外委員会並びに現地調査
於　宮崎市
（三橋会長）

十二月十二日
■神青協第十四回事業委員会　於　神社本庁
（菊池理事）

一月二十四日
■神青協第十八回役員会　於　神社本庁
（三橋会長・村井副会長）

■神青協第二回次期役員予定者会議　於　神社本庁
（村井副会長・芦原理事）

二月六日～七日
■巫女のための神宮研修会　於　神宮
（手塚理事・北海道神宮巫女二名）

二月二十～二十一日
■神武天皇二千六百年記念事業　世界平和祈願祭
於　宮崎県八紘一宇の塔前・宮崎神宮
（三橋会長・村井副会長・菊池理事）

二月二十一日
■神青協第十九回役員会　於　青島神社
（三橋会長・村井副会長）

三月六日
■神青協第二十二回次世代委員会　於　神社本庁
（手塚理事）

三月八日
■神青協第六回事業委員ＯＢ会　於　熊本県　喜楽
（三橋会長）

三月十一日
■東日本大震災物故者慰霊祭　於　初發神社
（三橋会長・村井副会長）

三月二十二日
■神青協第二十回役員会　於　広島護國神社
（三橋会長・村井副会長）

三月二十三日
■神青協第十五回事業委員会
於　ＡＮＡクラウンプラザホテル広島
（菊池理事）

二十三日～二十四日
■神青協中央研修会
於　ＡＮＡクラウンプラザホテル広島
（三橋会長・村井副会長・三橋副会長・北方事務局長・勝沼事務局次長・三橋理事・中島大理事・菊池理事・片石会員・中島徹会員・井上会員・横井会員・武田会員・西端会員・月舘会員）

【道神青協通信の発行について】

■平成二十八年七月三十一日
第六十六号発行　（担当　事業部会）

■平成二十八年十一月三十日
第六十七号発行　（担当　事業部会）

■平成二十九年三月三十一日
第六十八号発行　（担当　事業部会）

平成三十八年度 協賛神社一覧

【札幌】北海道神宮・豊平神社・札幌諏訪神社・札幌村神社・彌彦神社・信濃神社・札幌護国神社・篠路神社・琴似神社・発寒神社・江南神社・新琴似神社・手稲神社・西野神社・相馬神社・厚別神社・大谷地神社・白石神社・廣島神社・江別神社・錦山天満宮・石狩八幡神社・当別神社・厚田神社・豊栄神社・千歳神社・上手稲神社・烈々布神社・西岡八幡宮・新川皇大神社・石山神社・札幌祖霊神社・星置神社・南線神社・澄丘神社

【道南】函館八幡宮・亀田八幡宮・湯倉神社・船魂神社・福島大神宮・尻岸内八幡神社・鹿部稲荷神社・銭亀八幡神社・石崎地主海神社・七重浜海津見神社・一本栗地主神社・落部八幡宮・雷公神社・厳島神社

【檜山】神社庁檜山支部

【後志】住吉神社・龍宮神社・小樽稲荷神社・天満宮・潮見ヶ岡神社・豊足神社・高島稲荷神社・余市神社・仁木神社・赤井川神社・美國神社・泊稲荷神社・岩内神社・小沢神社・倶知安神社・京極八幡神社・喜茂別神社・留寿都神社・真狩神社・狩太神社・八幡神社・大鳥神社・壽都神社・厳島神社

【空知】夕張神社・岩見沢神社・空知神社・南幌神社・市来知神社・滝川神社・空知沿岸交通神社・江部乙神社・赤平神社・出雲神社・由仁神社・樺戸神社・長沼神社・新十津川神社・芽生神社・秩父神社・雨竜神社・沼田神社

【上川】鷹栖神社・旭川神社・上川神社・東神楽神社・神居神社・永山神社・比布神社・大上川神社・美瑛神社・富良野神社・和寒神社・剣淵神社・下川神社・中川神社・北海道護国神社・風連神社・中富良野神社・東川神社・士別神社・名寄神社・當麻神社・山部神社

【留萌】苫前神社

【宗谷】北門神社・浜頓別神社・厳島神社（枝幸）・豊富八幡神社・歌登八幡神社・厳島神社（礼文）・北見富士神社

【網走】網走神道青年会・網走神社・北見神社・女満別神社・美幌神社・津別神社・斜里神社・清里神社・小清水神社・端野神社・訓子府神社・置戸神社・留辺藥神社・常呂神社・上常呂神社・相内神社

【紋別】厳島神社・滝上神社・興部神社

【胆振】室蘭八幡宮・中嶋神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・壮瞥神社・虻田稲荷神社・豊浦神社・刈田神社・白老八幡神社・追分八幡神社・早来神社・厚真神社・鵡川神社

【日高】義経神社・大神宮社・氷川神社・静内神社・三石神社・浦河神社・様似住吉神社・住吉神社

【十勝】帯廣神社・大正神社・川西神社・芽室神社・御影神社・清水神社・新得神社・鹿追神社・士幌神社・上士幌神社・音更神社・札内神社・池田神社・陸別神社・本別神社・足寄神社・浦幌神社・十勝神社・大樹神社・茂岩神社・幕別神社

【釧路】厳島神社（釧路）・三吉神社・鳥取神社・昆布森神社・厚岸神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・厳島神社（白糠）・厚岸真龍神社

【根室】金刀比羅神社

北海道神道青年協議会事業頒布品
「北方領土啓発ステッカー」

我が国固有の領土である北方領土。不当に占拠されてより七十年が経過しておりますが、いまだ解決に向けての道筋さえ見えません。

尖閣、竹島に目がいきがちな昨今ですが、北方領土にも関心を持ってほしいとの思いから、ステッカーを製作いたしました。

耐水・耐候性があり屋外掲示が可能ですので、車をはじめ、様々な場所に貼ることが出来ます。是非ご活用くださいますようご案内いたします。

頒価 1枚100円（サイズ86㎜×57㎜）
【送料82円 ※5枚以上送料無料】

詳しくは道神青協事務局まで

北海道神道青年協議会事業品

北海道の御朱印帳と御朱印帳袋

御朱印帳、御朱印帳袋には北海道と日本最北の桜「千島桜」が織り込まれております。記念品等にお使いください。

●御朱印帳

頒価　一、〇〇〇円

北海道の神社名簿・ビニールカバー付

（送料別）

●御朱印帳袋

頒価　一、一〇〇円

（送料別）

編集後記

まずは通信第六十八号の作成にあたり、社務御多忙の中御寄稿戴きました皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。

いよいよ今期最後の通信となりました。次期になりましても、諸先輩の皆様には変わらぬご指導を、また会員の皆様の益々のご協力を宜しくお願いいたします。

（事業部会　菊池）

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一日創刊に当たり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に御揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会次期事務局
廣島神社社務所内
電　話　〇一一-三七二一-三五八四
FAX　〇一一-三七二一-三五八四
E-mail　info@doshinsei.jp